人生訓はいつまでも

岩手高校新六回生
斉藤　裕

人生において、良い師に恵まれることほど幸せはないと思われる。その点で小、中、高校大学と実に恵まれたと実感している。

終戦後、めまぐるしく変わる学制の中で、充実した教育を受けられるのは岩手中学しかないという小学校の恩師の薦めで、敢て選抜試験を経て中学校に入った。哲治先生との出会いである。（勿論担任であった）奇しくも桜城小学校の最初の担任は奥様の千代子先生であった。

哲治先生の「教え」は徹底した人生訓である。まず人は前を見て生きて行かねばならない。そのためには強い克己心がなければならない。というのが根底であった。

朝のホームルームでいつも聞かされる言葉、それは「為せば成る、為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」と「我に七難八苦を与えたまえ」であった。

これが当時斬新な中高一貫教育を目指した岩手中高生だった我々に勉強させる大きなモチベーションとなっていたような氣がする。

絵画の教師としての先生は、勿論著名な画家であられたのでなかなか手厳しかった。技巧に走る小生の絵は「心が無い」と批評されもっと素直に感動を色にするようにアドバイスされたものである。

先生の好きな画家はかのゴッホであり、何故か当時の小生には、先生の絵とは対極にあるように感じられた。しかし、晩年の先生の絵は突然に色が変わり黒が随所に太い影を彩った。病床に先生を見舞った時にその事を申し上げたらにっと笑われた。

今、師と徒とはどちらも歩み寄れず、精神教育などは進学の前には二の次。ここから出発している日本の社会は何かが狂っているような気がしてならない。

今ほど哲治先生のような人物が必要なのでは？